

## 行政調査報告書「総務企画常任委員会」

平成 21 年 7 月 8 日（水）～10 日（金）

### ■北海道江別市「大学との包括連携について」

江別市は 4 つの大学と 2 つの短大があるが、学生のゴミ出しや自転車の放置の問題等も今回の連携の一端になったと感じた。2 月に包括連携・協力協定を結んだばかりだが、地域の方々に大学の資源を有効に使っていただくために、食堂や図書館等の開放をしたり、中心市街地再生やまちづくり活動に、学生達が知恵を出して市民との関わりを積極的に行っていることなどもしており、連結協力事項についてもしっかりとした取り組みで進んでいるように感じた。



### ■北海道札幌市「総合評価制度について」

札幌市は除雪費用として年 3～4 億円の費用が掛かっていて、財政的な悩みの一つとなっている。そのため落札配点表の項目に、地域貢献度として、企業として除排雪に貢献したり、除雪出来ない高齢者宅周辺のボランティア活動をした業者に対し加算配点をしている。札幌市の総合評価落札方式は、加算・除算方式の 2 通りを採用しており、全て事前審査のため、審査に約 6 週間と時間が掛かってしまう。安城市も同様だが、札幌市としても今後どうやって日程を縮めていくかが課題のようだ。



### ■北海道夕張市「財政再建計画について」

札幌市から 1 時間半。街には人通りが無く家並みも寂れているように思えた。中学校は統合により閉鎖、小学校の校庭は草が多く、手が入っているようには見えなかった。しかし一方、夕張駅はきれいに改装され、再建は徐々に進んでいるように思えた。この 2 年間で計画通り 25 億円の赤字を解消し、再建計画において主な事務事業で、住民生活に関するもの 17 項目、その他 39 項目について廃止し、国の指導も有るが住民・行政が一体となって再建に取り組んでいる姿勢が窺えた。

### ■北海道苫小牧市「行財政改革健全化の取り組みについて」

市内に 10 の工業団地を誘致し、自動車関連を中心とした機械金属加工等が基幹産業を形成している。平成 13 年度に 5 年間の第 2 次行政改革推進計画を策定し、3 年後に約 55 億円の節減効果を出したが、なお深刻な財政状況により、第 2 次計画の終了を待たずに第 3 次行政改革推進計画を前倒し策定し、職員数の削減、職員給与見直し、老人ホームの民間委譲、民間委託の拡大など 96 億円余の削減を計画した。現在は約 90%の達成率であり、今後は、平成 24 年度を目途に市バスの民間委譲や給食調理業務の民営委託等が検討中である。

